

荒れ狂つた台風一一号の爪跡

一、気象状況
二、災害時の措置
三、災害状況
四、災害対策

台風第十二号は数十年來の強い台風であった云われる程その被害は大きき、一夜にして戦後最高の農作を期待されて居た農作物は勿論、家屋其の他、実に三箇所を上廻る甚大な損害を与えて過ぎ去つたが、當時の気象状況及び災害の情況並びに之が対策の概要を述べる所とする。

一、気象状況

この台風は九月二十日頃、大東島の東方海上に発生した低気圧が発達したもので、進路を西北西にとつて、次第に発達しながら本土に近づいて来た。二十八日の本村の天候は夕方迄は一部には台風の接近を考へられる微風はあつたが大した変化はなく五米位の東北東の風が吹いて居る程度であつた。夕方から雨を伴つた十米位の風が吹き初め、午後十一時頃風雨注意報が発令され、台風の南九州接近はほぼ確実視され始めた。二十九日夜半二時頃風速十五メートルを越すと台風は猛烈な風となり、海上では船は走行不能となつた。また、陸上では車は走行不能となつた。このためには、工場の入り込み能力によるものである。潜伏しない様に、きらきらしない様にする計画も大大切です。この様にして工場の操業が行なわれますと穀粉の歩留りが非常に多くなり、したがつて売上代金も多くなりますからみなさんの生業を高く貢献したこと。諸が少いときは、生産者には有利なようになりますが買わざ、結局製造業者が損をします。必ず反動がきく翌年は生

生甘諸集荷要領

一、台風の経過
二、台風の特徴
三、台風の特徴

この台風は雨は割合に少なかつたが、それでも延べ三八四・五五日に過ぎ去つて行つた。

口、雨量

此の台風は雨は割合に少なかつたが、それでも延べ三八四・五五日に過ぎ去つて行つた。

口、雨量